

令和元年度
第一回市町村議会議員特別セミナー
受講報告

1. 受講日時

令和元年8月1日～8月2日

2. 受講場所

全国市町村国際文化研修所（大津市）

3. 講義及び講師

第一日 *滋賀県の挑戦 ～みんなで作ろう！健康しが～

講師；滋賀県知事 三日月大造知事

*人生 100年時代と「ごちゃまぜ」社会

講師；社会福祉法人佛子園 雄谷良成理事長

第二日 *スポーツツーリズムを活用したまちづくり

～スポーツがもたらす地域活性化の効果～

講師；同志社大・スポーツ健康科学部 二宮浩彰教授

*関係人口の作り方 ～ぼくらは地方で幸せを見つける～

講師；月刊「ソトコト」 堀井一正編集長

4. 受講者

近藤文博 高瀬 洋

令和元年度第一回市町村議会議員特別セミナーを受講（所感）

近藤文博

・滋賀県も当市同様健康をキーワードにした施策に重点をおいている。ただし、人の健康のみならず、「社会の健康」・「自然の健康」にも配慮し、より持続可能な社会の実現を目指していることを知事は強調された。

2017年に都道府県初のSDGsの県政への取り組みを宣言し、2019年7月にはSDGs未来都市に選定され、これは実効が上げれば素晴らしいことと評価できる。

・社会福祉法人佛子会の雄谷理事長は、シェア金沢など日本でいち早く日本版CCRC (Continuing Care Retirement Community) を運営した人物です。CCRCとは、高齢者が元気なうちに入居して、終身で過ごすことが可能な生活共同体を指しますが、更に高齢者と障害者、ボランティア、大学生などで「人がつながり、支えあい、共に暮らす街」をコンセプトとする施設です。老人ホームを進化させた「ごちゃまぜ」なまちづくりを提案しています。当市にとっても中心市街地にこのようなコンセプトを生かせる将来のまちづくりができないかを課題として検討できるのではないかと思った。

・スポーツによるまちの活性化では、特に当市規模のまちおこしの参考にはならない事例紹介であった。関係人口のづくり方では、観光以外にさまざまな観点があり地域資源を活かした取組が強調されたが、当市ではまだ地域資源の十分な分析がなされておらず、またそれを実行する人材から育成を要する段階のような思いを強く受けた。

以上

令和元年度第一回市町村議会議員特別セミナーを受講（所感）

高瀬 洋

石川県の「社会福祉法人 佛子園」は、社会福祉関係に従事する人なら知らない人はいない程有名な施設である。この施設の理事長でありお寺のご住職でもある雄谷良成氏の講義を今回受講できた。



講義会場の様子

この施設は老若男女、障害のある人もない人もすべての人が遊びに来ることができる場所を目指してつくられた。いろいろな人が『ごちゃまぜ』になると活気が生まれ、役割が生まれるという。佛子園では当たり前のようにできている『ごちゃまぜ』の空間。障害を持っている人でも仕事ができる場所をスタッフ全員がいつも考えている。これまで障害の原因と考えられていた問題が生活習慣や接し方、環境で改善する

ことがわかったのだそうだ。その人を信頼して仕事を任せていくために、スタッフとして何ができるかを話し合う。一人々の気持ちを考えるように心がけているそうだ。誰でも「認められたい」「必要とされたい」と思うのは自然な要求であり、それが満たされることで生活への励みが生まれてくる。

具体的な成果の例として、次のような紹介があった。

- ・高齢者の市民活動やボランティアが「人から必要とされること」で介護認定度が下がったり、地元の人に自ら「やらせて」「任せていく」ことで成長する。
- ・自閉症の子が障害者の子のリハビリをしたり、引きこもりの大学生が園児のサポートでやり甲斐を見だし、無遅刻無欠勤になった。
- ・『ごちゃまぜ』は社会的弱者を排除するのではなく、社会全体でひっくるめて全体を向上させる。

佛子園には全国から多くの視察がある。冒頭で社会福祉関係に従事する人なら知らない人はいない程有名な施設と書いたが、さて、このような施設を西脇にもつくれるだろうか。私は、この施設の特徴として無料で入れる温泉の存在が大きいのではないかと思う。温泉での入浴後にカフェ兼居酒屋のオープンスペースで休憩していたら、この施設が「ごちゃまぜ」のスタッフで運営されていて、健常者にとっても自然に障害をもっている人や高齢者への理解が深まり、楽しく過ごせる場所になったというようなふれ合いの場としての地域への浸透が大切であるように思う。

温泉でなくても構わないので、人を引きつける仕掛けができれば、可能かも知れないと思った。

以上